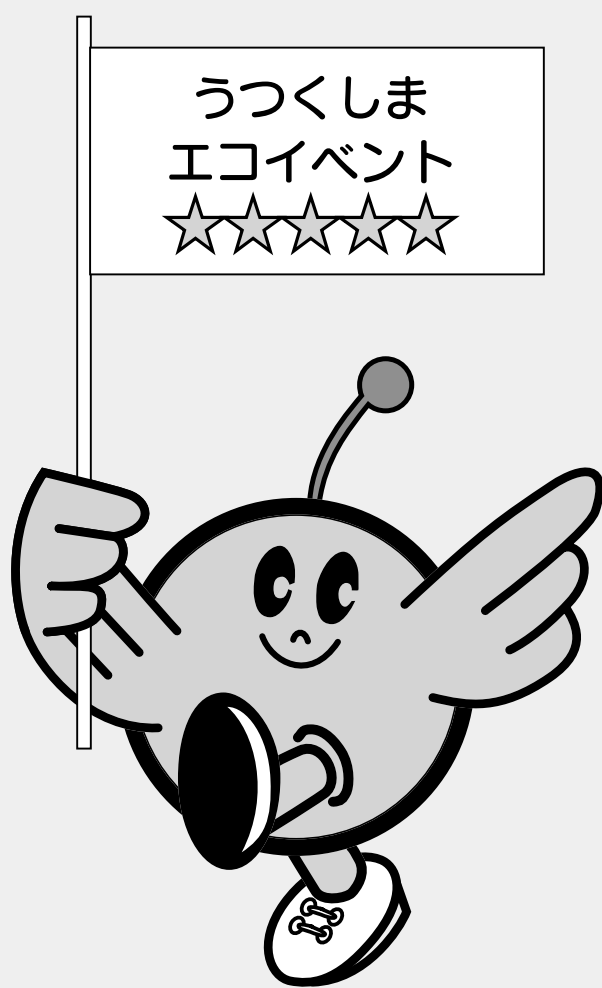


うつくしまエコイベント

マニュアル(第1版)



平成15年2月
福島県

はじめに

福島県では、自らが一事業者、一消費者としての立場から、事務の執行等に際して、率先して環境負荷低減の取組みを進めています。特に、県庁の本庁舎及び西庁舎においては、国際的な規格であるISO14001に適合した環境マネジメントシステムを構築し、徹底した取組みを進めています。

また、平成13年度に開催したジャパンエキスポ「うつくしま未来博」では、“森と共生する暮らし”を目指して「エコチャレンジ21」として様々な実験を行い、会場内で試された知恵や技術を21世紀の課題解決に向けた「ふくしまからのメッセージ」として全世界へ、そして未来へと発信しました。

豊かな環境を守り、将来の世代に引き継いでいくことは私たちの責務であり、そのためには、あらゆる主体が様々な場で環境保全に取り組んでいくことが重要です。

このようなことから、県では、「うつくしま未来博」の理念と成果を継承し、イベント開催に当たって環境配慮を推進するためのマニュアルを策定いたしました。

このマニュアルに基づいて、県が実施するイベントにおいては率先して環境負荷の低減を図ってまいります。県民の皆様や企業の皆様にもこのマニュアルを御活用いただきたいと思いますと考えております。

県では、一定の要件を満たすイベントを「うつくしまエコイベント」として認定いたします。認定を希望される方は、事務局（電話024-521-7248）までお知らせください。

平成15年2月17日

福島県生活環境部環境政策室
環境活動推進グループ

目 次

1	エコイベントとは	2
2	エコイベントの認定	5
3	エコイベントのフロー	6
4	エコイベントの取組内容	7
	（1）自然環境への配慮	7
	（2）ごみ減量化・リサイクル	8
	（3）交通による環境負荷対策	9
	（4）省資源・省エネルギー	10
	（5）参加者への普及啓発	11
	（6）環境配慮を推進する運営体制	12
5	チェックシートと様式	13

マニュアルの最新版について

「うつくしまエコイベントマニュアル」は、皆様の取組みの成果等を踏まえて、必要に応じて改訂いたします。

最新版は、ホームページ「ふくしまの環境」

(<http://www.pref.fukushima.jp/hozen/index.htm>) を御覧いただくか、事務局（電話024 - 521 - 7248）にお尋ねください。

1 エコイベントとは

イベントには様々なものがありますが、テーマや規模にかかわらず、環境に配慮したイベントを「エコイベント」と言います。

県では、特に一定の要件を満たしているイベントを「うつくしまエコイベント」として認定いたします。

エコイベントの必要性

今日の環境問題は私たちの日常生活や通常の事業活動に起因するものが多くなっているのが特徴です。イベント開催時（準備段階も含む。）にも、チラシ等の紙の使用による森林資源の減少、電気やガソリンの使用による地球温暖化など様々な環境負荷が発生します。

また、イベントには多数の人々が集まりますので、来場者の環境保全に対する理解や実践活動を促進する良い機会です。

このようなことから、イベントの開催にあたっては、環境に配慮した取り組みを進めることが必要です。

対象となるイベント

対象となるイベントは、県内で開催される式典、催し（展示会、お祭り、シンポジウム等）です。（環境をテーマとしたイベントに限らず、様々なイベントが対象となります。）

🍷 基本的な考え方

イベントの開催に当たっては、各主催者が創意工夫し、自主的な取り組みを進め、環境への負荷をできるだけ少なくすることが重要です。その取り組みに当たっては、イベントの規模や目的に応じて、できるところから柔軟に進め、次第にステップアップを図っていくことが大切です。

また、イベント本来の目的を大切にしながら環境配慮を推進するとともに、イベントの参加者に環境に対する関心をもってもらい、参加者の自主的な環境保全活動の促進を図っていくことが大切です。

イベント開催による環境負荷を低減する
各主催者が創意工夫し、自主的な取り組みを進める
柔軟な発想で、できることから始める
イベントの目的と環境配慮を両立する
参加者の環境保全活動を促進する

🍷 取組項目

イベント開催に伴う環境負荷の要因としては様々なものがありますが、本マニュアルでは下記の6つの項目に取り組むこととしています。

- (1) 自然環境への配慮
- (2) ごみ減量化・リサイクル
- (3) 交通による環境負荷対策
- (4) 省資源・省エネルギー
- (5) 参加者への普及啓発
- (6) 環境配慮を推進する運営体制

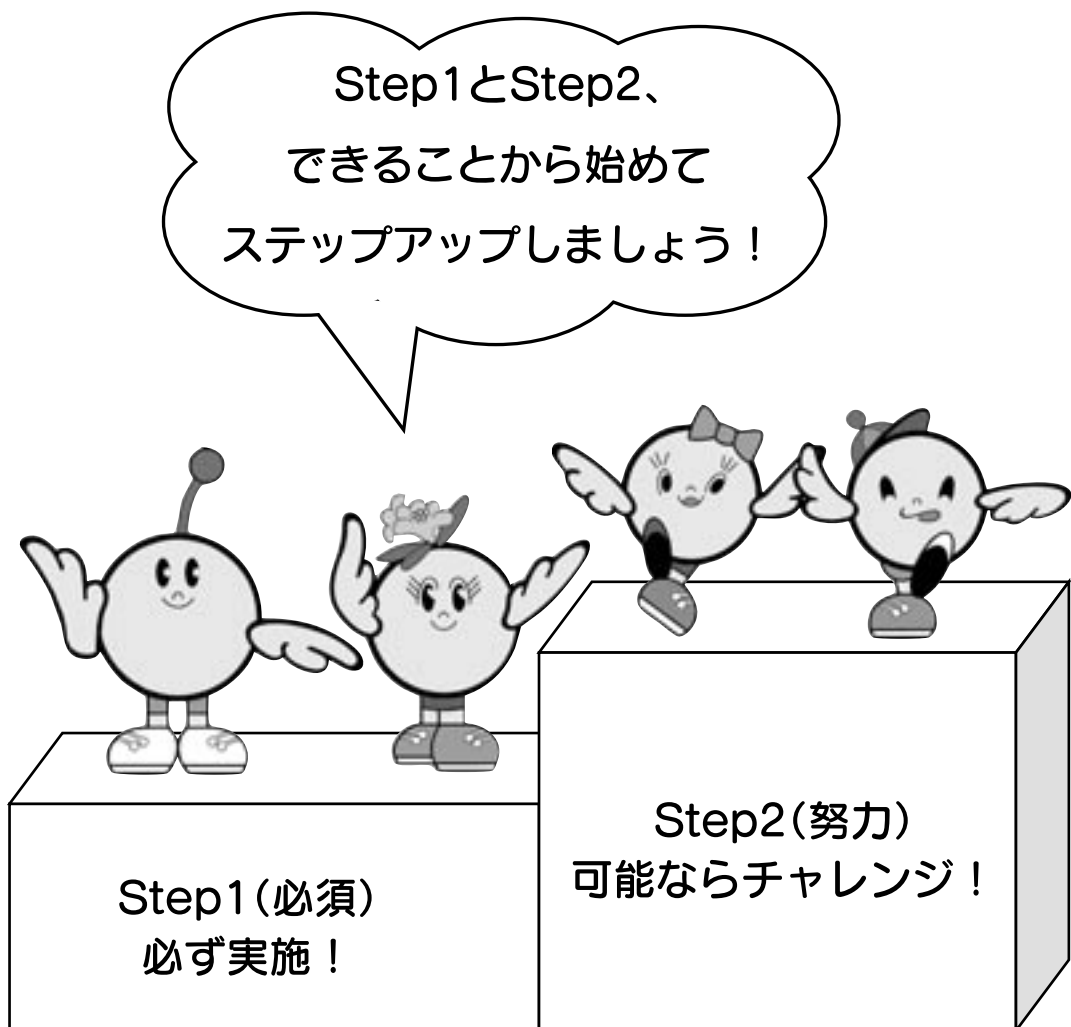
🍷 取組内容

本マニュアルでは、6つの取組項目ごとに、Step1(必須)とStep2(努力)の取組内容を定めています。

Step1(必須)は必須事項であり、比較的簡単に取り組めるものとなっています。

Step2(努力)は努力事項であり、可能であればチャレンジしていただきたいものです。

できることから始めて、次第にステップアップを図りましょう。



2 エコイベントの認定

イベント開催に当たってはすべての取組項目を実施することが望ましいのですが、自主的にできることから始めるという本マニュアルの趣旨から、下記の要件を満たしているイベントを「うつくしまエコイベント」として認定いたします。(なお、県の共催、後援を申請するイベントにおいては、出来るだけ認定を受けていただくようお願いします。)

🗑️ 認定要件

下記の6つの取組項目のうち、(6)を含む3項目以上でStep1を全て実施すること。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| (1) 自然環境への配慮 | (4) 省資源・省エネルギー |
| (2) ごみ減量化・リサイクル | (5) 参加者への普及啓発 |
| (3) 交通による環境負荷対策 | (6) 環境配慮を推進する運営体制 |

🗑️ 申し込み方法

「うつくしまエコイベント申請書」を下記宛てにお送りください。

事務局：福島県生活環境部環境政策室環境活動推進グループ

(平成15年度より、生活環境部環境共生領域環境活動推進グループ)

住所 〒960 - 8670 福島県福島市杉妻町2番16号

電話 024 - 521 - 7248

FAX 024 - 521 - 7928

Eメール katsudou@pref.fukushima.jp

申請書の受付は、各地方振興局商工県民部環境課(南会津地方振興局は県民環境課、いわき地方振興局は県民生活課)でも行っています。また、申請様式等をホームページに掲載していますのでご活用ください。

🗑️ 認定を受けると

県のホームページにイベントの開催情報やエコイベントとしての取組内容を掲載いたします。ホームページに掲載する際には、エコイベントの取組内容に応じて下記により 印を付記いたします。

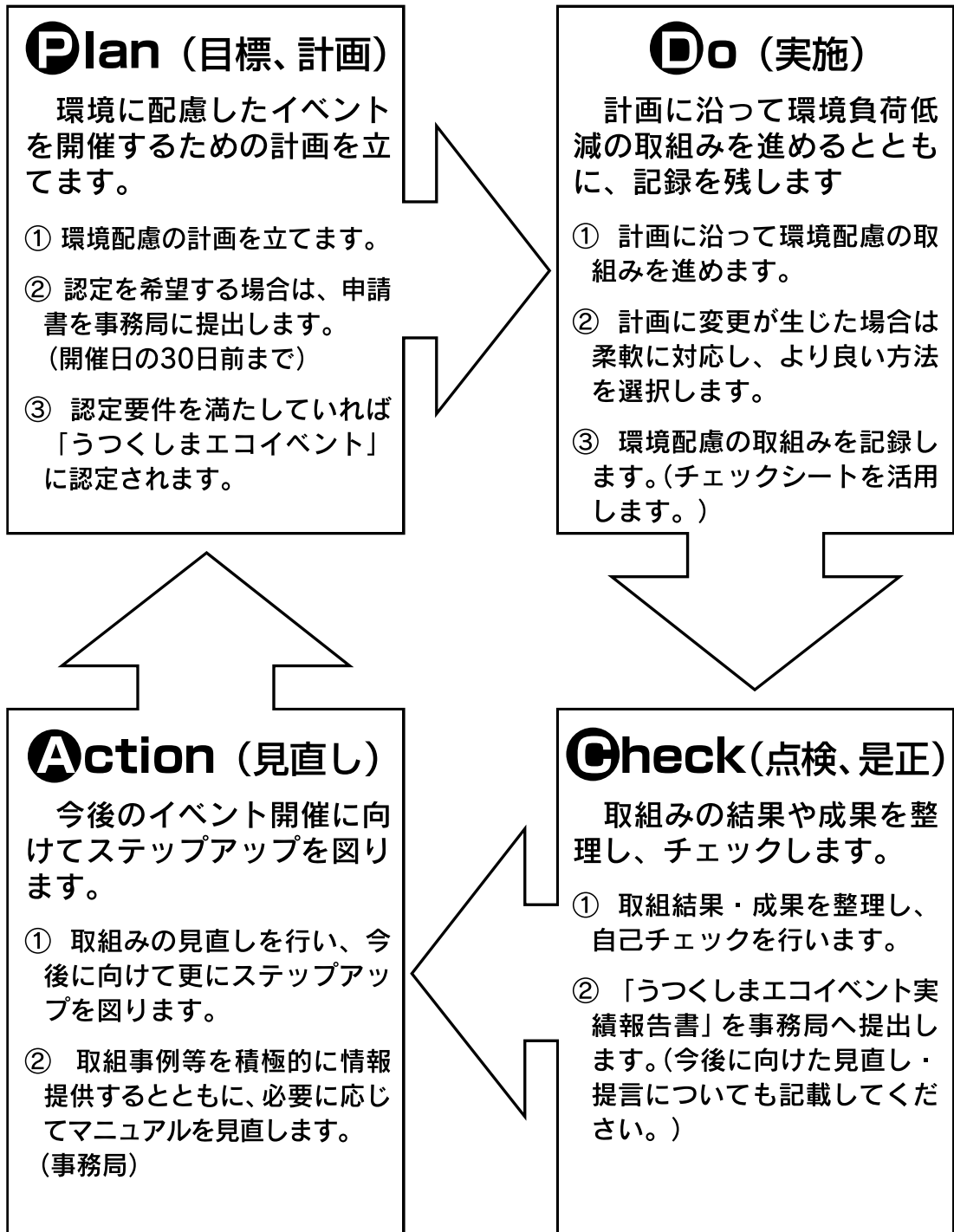
また、 の数に応じて「うつくしまエコイベントマーク(19頁)」を御利用いただけます。

なお、 の数は、各主催者に認定通知をする際にお知らせいたします。

の数と取組内容

の数	Step1を全て実施する項目数	Step2の取組内容の実施個数 (Step2相当の独自取組も含む)
	3～4項目	0
	5～6項目	0
	6項目	3～4
	6項目	5～7
	6項目	8以上

3 エコイベントのフロー



PDCAサイクルで常にステップアップを図りましょう!

4 エコイベントの取組内容

(1) 自然環境への配慮

🍷 基本方針

私たち人間の生活は豊かな自然環境に支えられています。福島県は、優れた自然環境や景観を有しており、自然の中で開催されるイベントも多くみられます。イベントの開催に当たっては、自然環境への負荷を可能な限り少なくし、自然との共生を図る必要があります。

- 自然環境や生態系に与える影響を最小限にします。
- 自然公園等を利用するときは、その規則を守ります。
- 景観への配慮を行います。
- 自然環境に手を加えた場合は、その回復を図ります。

🍷 取組内容

Step1 (必須)	<p>可能な範囲で、イベントの開催が自然環境へどのような影響を与えるのかを考えます。</p> <p>例：排水による水環境への影響や本来地域に生息していない植物・魚類等の移植・放流等による生態系への影響など</p> <p>会場設置に当たっては、既存施設を活用するなどして自然環境への影響を最小限にします。</p> <p>植樹、魚の放流等を行う場合は、生態系への影響に配慮します。</p> <p>自然公園や自然環境保全地域等を利用するときは、その規則を守ります。</p>
Step2 (努力)	<p>事前に会場周辺の生態系を調べます。</p> <p>施設の設置に当たっては、自然環境に配慮した工法を活用します。</p> <p>施設の設置に当たっては、会場周辺の景観に配慮します。</p> <p>環境に与えた影響については、原状回復を図ります。</p> <p>各種ボランティア団体等の協力を得るなどして、参加者が自然に学び、ふれあう機会の創出を図ります。</p>

(2) ごみ減量化・リサイクル

基本方向

イベント開催時には多くの人々が集まり、多量の廃棄物が発生する可能性があります。イベントの開催に当たっては、廃棄物の発生を最小限にするとともに、やむを得ず発生したものについては適切に処理しなければなりません。

できるだけごみを出さないようにします。(リデュース)
もう一度使えるものは再使用します。(リユース)
使えないものは分別して再生利用します。(リサイクル)
再生利用できないものは適正に処理します。(適正処理)
(注)リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生使用)

取組内容

Step1 (必須)	チラシや資料等は必要部数を考慮して、無駄のないように用意します。 余ったチラシや資料等は再使用、再生利用します。 参加者に、ごみの持ち帰り、減量化、分別等の協力を求めます。 ごみは、会場がある市町村のルールに従ってきちんと分別します。 産業廃棄物についても法令等に従い適正に処理します。
Step2 (努力)	ごみの分別方法等を説明するスタッフを配置します。 マイバッグ、マイ食器の利用や簡易包装を呼びかけます。 マイバッグ、マイ食器などにより環境配慮に協力している参加者に特典を与えます。 食品廃棄物やイベント資材の再生利用等に取り組みます。

(3) 交通による環境負荷対策

基本方向

イベント開催時には多くの人々が様々な交通手段を用いて集まります。自動車は便利な乗り物ですが、自動車排出ガスは大気汚染や地球温暖化の主な原因の一つになっているとともに、交通渋滞はエネルギーの無駄づかいにもつながります。イベントを開催する際には、交通による環境負荷を削減するための取組みが必要です。

交通による環境負荷が小さくなるような会場設定を心がけます。
効率的な交通手段の確保を心がけます。
来場者の理解と協力を求めます。

取組内容

Step1 (必須)	会場の選定に際しては、可能な限り公共交通機関の利用に配慮します。 徒歩、自転車、公共交通機関等の環境負荷の少ない手段の利用を呼びかけます。 自動車の効率的な利用（相乗り等）やアイドリングストップを呼びかけます。
Step2 (努力)	パーク・アンド・ライド環境の整備やシャトルバスの活用により、効率的な交通手段を用意します。 効率的な自動車の誘導、交通経路の情報提供等を実施するとともに、必要に応じて交通規制を行います。 交通渋滞を引き起こさないように、イベント開催時間を適切に設定します。 公共交通機関の利用、自動車の相乗りなど、環境配慮に協力している参加者に特典を与えます。 電気自動車、ハイブリッド自動車などの低公害車を活用します。

(4) 省資源・省エネルギー

基本方向

イベント開催時には、種々の資源やエネルギーを消費することが想定されます。環境に配慮した楽しいイベントにするために、資源やエネルギーの無駄づかいをなくすとともに有効活用を図ることが必要です。

資源やエネルギーの節約に努めます。

資源やエネルギーを再使用・再生使用し、有効に活用します。

環境への負荷の少ない新エネルギーの活用を図ります。

取組内容

Step1 (必須)	<p>チラシや資料等は必要部数を考慮して、無駄のないように用意します。(再掲)</p> <p>照明や空調によるエネルギー消費をできるだけ少なくします。</p> <p>参加者に省資源・省エネルギーへの協力を呼びかけます。</p> <p>物品等の購入に当たっては、環境に配慮した商品(エコマーク、グリーンマーク商品等)の購入に努めます。</p>
Step2 (努力)	<p>インターネット等を活用して、資源を節約したPRを行います。</p> <p>施設の設置に当たっては、間伐材を利用したり、高断熱、自然採光等の省エネ工法を活用します。</p> <p>節水型トイレや雨水利用システム等の省資源型設備を導入します。</p> <p>会場内の照明や移動手段の動力源等に、太陽光発電や生ごみ発電等の新エネルギーを活用します。</p> <p>資材、物品等はできるだけ地域で生産されたものを調達するよう心がけるとともに、イベントの講師等には地域で活動する方を積極的に活用します。</p> <p>地元の生産物を地元で消費することを「地産地消」といいます。県産の農産物や木材等の活用は農林水産業の振興や環境保全に寄与します。</p>

(5) 参加者への普及啓発

基本方向

イベントには様々な人々が参加します。参加者の環境保全に対する理解や実践活動を促進する良い機会です。環境をテーマとしたイベントであるかどうかを問わず、イベント開催時の環境配慮を通して、参加者の環境保全に向けた意識啓発を図りましょう。

環境に配慮したイベントであることを積極的にPRします。

環境配慮の取組内容を参加者にわかりやすく伝えます。

参加者の自主的な環境保全の取組みを促進します。

環境保全に関する情報の提供に努めます。

取組内容

Step1 (必須)	環境に配慮したイベントであることを積極的にPRします。 環境配慮の内容を参加者にわかりやすく示し、協力を求めます。
Step2 (努力)	参加者自らが環境への配慮を体験できるようにします。 参加者に各種環境関連情報を積極的に提供します。 ボランティア団体等と連携し、参加者が環境について学ぶ機会を提供します。

(6) 環境配慮を推進する運営体制

🗑️ 基本方向

イベントの実施に当たっては、環境配慮を進めるための運営体制を整えて、開催時のみならず、計画、準備の段階から取組みを進めていくことが必要です。また、PDCAサイクルにより、次回の開催に向けてステップアップを図っていくことが大切です。

環境に配慮したイベントとすることを宣言します。
環境配慮を進める体制を整えて、計画をつくります。
スタッフ各人の環境配慮への自覚を促します。
環境配慮を進めるに当たって関係団体等と協力します。
PDCAサイクルで常にステップアップを目指します。

🗑️ 取組内容

Step1 (必須)	環境に配慮したイベントとすることを宣言し、計画（取組項目、内容等）を立てます。 環境配慮を推進する責任者を決めて、進行管理を行います。 スタッフや出展者等に取組項目等を事前に説明し、環境配慮の徹底を図ります。 取組結果をチェックして、常にステップアップを図ります。
Step2 (努力)	取組内容や成果を積極的にPRし、他のイベントにおける環境配慮に貢献します。 各種ボランティア団体等との連携・協働を図ります。 ユニバーサルデザインの考え方に基づいた運営を行います。 「ユニバーサルデザイン」とは、年齢や性別、身体的能力などの違いにかかわらず、初めからすべての人が使いやすいように、製品や建物、空間をデザインしようとする考え方です。例えば、分別回収の表示を大きな字で読みやすくする、外国語でも表示する、会場内に段差をつくらないことなどの取組みを進め、誰もが環境に配慮したイベントを楽しめるよう心がけましょう。

5 チェックシートと様式

イベント開催時の環境配慮を推進するためのチェックシート及び申請・報告に使用する様式を用意いたしましたのでご活用下さい。

うつくしまエコイベントチェックシート

(準備・実施時に活用してください。事務局への提出は不要です。)

計画欄は、イベントを計画する段階でチェックし、環境に配慮するためにどのような取組みを行うのか計画を立てます。

実施欄は、実際にイベントを準備、実施する段階で、どのような取組みを行ったのかをチェックします。

マニュアルに掲載されていない独自の取組みを行う際には、「上記以外の取組み」又は「その他の取組み」の欄に記載してください。

うつくしまエコイベント申請書

(認定を希望する場合は、事務局に提出してください。)

うつくしまエコイベントの認定を申請する場合は、申請書を事務局に提出してください。実施を予定している取組内容の番号に「 」をつけてください。(各番号の内容についてはチェックシートを参照してください。)

うつくしまエコイベント実績報告書

(認定を受けた場合は、イベント実施後に事務局に提出してください。)

エコイベント開催後は、実績報告書に環境配慮の取組みの結果や成果をまとめるとともに、今後に向けた見直しや提言等を記載して事務局に提出してください。

「うつくしまエコイベントマニュアル」は、皆様の取組みの成果を活かして、PDCAサイクルによって継続的にステップアップを図っていくシステムです。

申請書に記載していただいたエコイベントの情報や取組実績は、事務局がとりまとめて、ホームページに掲載いたします。

自らの取組みをチェックするとともに、他のイベントの参考にもなりますので、イベント実施後に実績報告書を作成し、事務局に提出してください。

うつくしまエコイベントチェックシート（1 / 3）

取組項目	Step	取 組 内 容	計画	実施
自然環境への配慮	Step1 (必須)	可能な範囲で、イベントの開催が自然環境へどのような影響を与えるのかを考えます。		
		会場設置に当たっては、既存施設を活用するなどして自然環境への影響を最小限にします。		
		植樹、魚の放流等を行う場合は、生態系への影響に配慮します。		
		自然公園や自然環境保全地域等を利用するときは、その規則を守ります。		
	Step2 (努力)	事前に会場周辺の生態系を調べます。		
		施設の設置に当たっては、自然環境に配慮した工法を活用します。		
		施設の設置に当たっては、会場周辺の景観に配慮します。		
		環境に与えた影響については、原状回復を図ります。		
		各種ボランティア団体等の協力を得るなどして、参加者が自然に学び、ふれあう機会の創出を図ります。		
	上記以外の取組み			
ごみ減量化・リサイクル	Step1 (必須)	チラシや資料等は必要部数を考慮して、無駄のないように用意します。		
		余ったチラシや資料等は再使用、再生利用します。		
		参加者に、ごみの持ち帰り、減量化、分別等の協力を求めます。		
		ごみは、会場がある市町村のルールに従ってきちんと分別します。		
	Step2 (努力)	ごみの分別方法等を説明するスタッフを配置します。		
		マイバッグ、マイ食器の利用や簡易包装を呼びかけます。		
		マイバッグ、マイ食器などにより環境配慮に協力している参加者に特典を与えます。		
		食品廃棄物やイベント資材の再生利用等に取り組みます。		
	上記以外の取組み			

うつくしまエコイベントチェックシート（2 / 3）

取組項目	Step	取 組 内 容	計画	実施
交通による環境負荷対策	Step1 (必須)	会場の選定に際しては、可能な限り公共交通機関の利用に配慮します。		
		徒歩、自転車、公共交通機関等の環境負荷の少ない手段の利用を呼びかけます。		
		自動車の効率的な利用（相乗り等）やアイドリングストップを呼びかけます。		
	Step2 (努力)	パーク・アンド・ライド環境の整備やシャトルバスの活用により、効率的な交通手段を用意します。		
		効率的な自動車の誘導、交通経路の情報提供等を実施するとともに、必要に応じて交通規制を行います。		
		交通渋滞を引き起こさないように、イベント開催時間を適切に設定します。		
		公共交通機関の利用、自動車の相乗りなど、環境配慮に協力している参加者に対して特典を与えます。		
	電気自動車、ハイブリッド自動車などの低公害車を活用します。			
上記以外の取組み				
省資源・省エネルギー	Step1 (必須)	チラシや資料等は必要部数を考慮して、無駄のないように用意します。（再掲）		
		照明や空調によるエネルギー消費をできるだけ少なくします。		
		参加者に省資源・省エネルギーへの協力を呼びかけます。		
		物品等の購入に当たっては、環境に配慮した商品（エコマーク、グリーンマーク商品等）の購入に努めます。		
	Step2 (努力)	インターネット等を活用して、資源を節約したPRを行います。		
		施設の設置に当たっては、間伐材を利用したり、高断熱、自然採光等の省エネ工法を活用します。		
		節水型トイレや雨水利用システム等の省資源型設備を導入します。		
	会場内の照明や移動手段の動力源等に、太陽光発電や生ごみ発電等の新エネルギーを活用します。			
	資材、物品等はできるだけ地域で生産されたものを調達するよう心がけるとともに、イベントの講師等には地域で活動する方を積極的に活用します。			
上記以外の取組み				

うつくしまエコイベントチェックシート（3 / 3）

取組項目	Step	取組内容	計画	実施
参加者への普及啓発	Step1 (必須)	環境に配慮したイベントであることを積極的にPRします。		
		環境配慮の内容を参加者にわかりやすく示し、協力を求めます。		
	Step2 (努力)	参加者自らが環境への配慮を体験できるようにします。		
		参加者に各種環境関連情報を積極的に提供します。		
	上記以外の取組み			
環境配慮を推進する運営体制	Step1 (必須)	環境に配慮したイベントとすることを宣言し、計画（取組項目、内容等）を立てます。		
		環境配慮を推進する責任者を決めて、進行管理を行います。		
		スタッフや出展者等に取組項目等を事前に説明し、環境配慮の徹底を図ります。		
		取組結果をチェックして、常にステップアップを図ります。		
	Step2 (努力)	取組内容や成果を積極的にPRし、他のイベントにおける環境配慮に貢献します。		
		各種ボランティア団体等との連携・協働を図ります。		
	上記以外の取組み	ユニバーサルデザインの考え方に基いた運営を行います。		
その他の取組み				

うつくしまエコイベント実績報告書
(事務局FAX番号:024 - 521 - 7928)

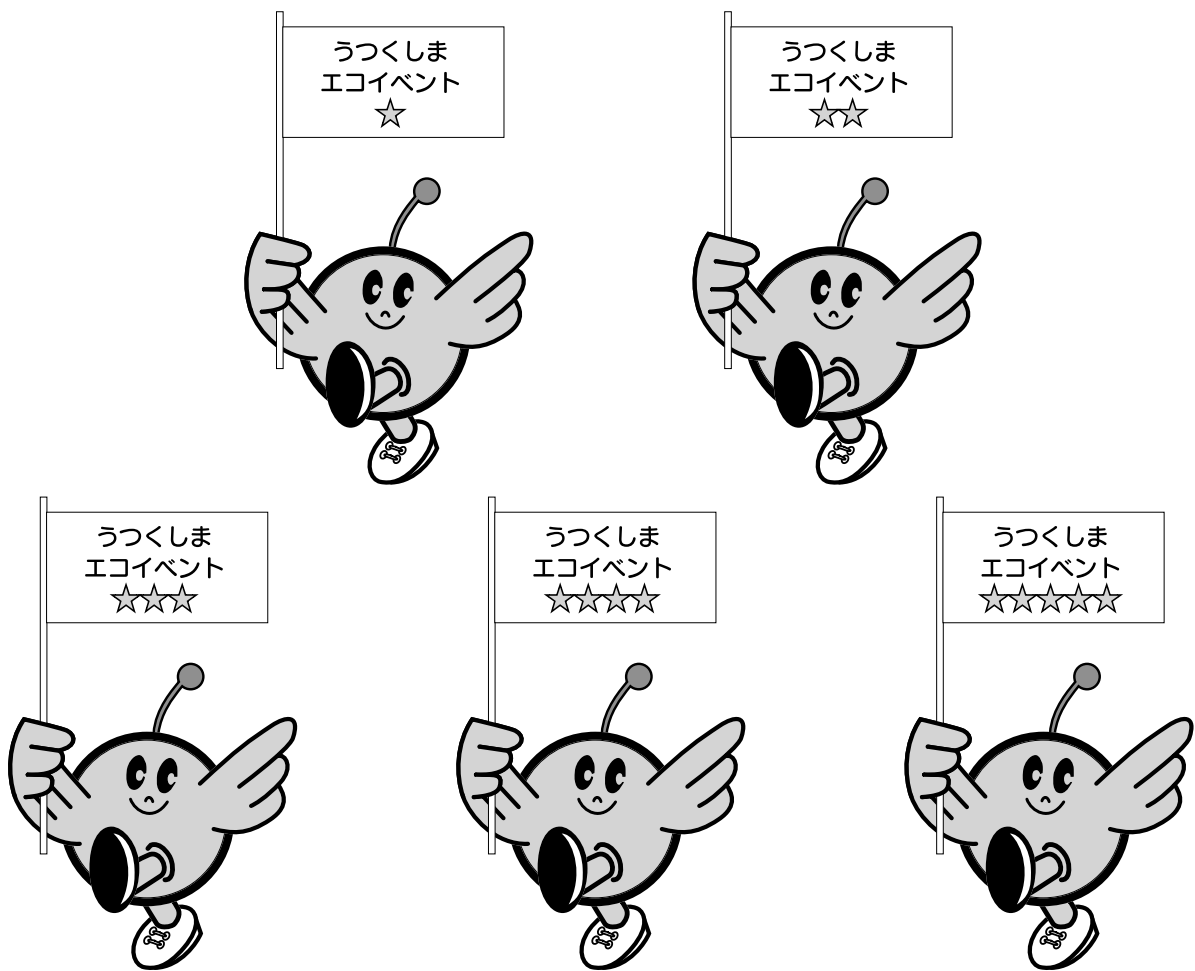
イベント名				
主催者				
実績報告担当者	職		氏 名	
	電 話		Eメール	
取組結果・成果と今後に向けた見直し・提言等				

「うつくしまエコイベント」マークについて

うつくしまエコイベントの認定を受けたイベントにおいては、取組内容に基づく☆の数に応じて下記のマークをご利用いただけます。

ポスターやチラシなどに活用して、環境に配慮したイベントであることを積極的にPRしましょう。

また、次回の認定を受けるときには、取組みのステップアップを図り、☆の数を増やしましょう。



☆を増やして地球を守ろう！

☆の数と取組内容については、5ページ「◆認定を受けると」をご覧ください。

うつくしま未来博



ボランティア団体との連携（森の学校）



省エネ工法（屋上緑化）の活用（21世紀建設館）



生活に密着した環境技術の活用（エコファミリーパーク）



自然エネルギーの活用（水力エレベーター）

うつくしまエコイベントマニュアル（第1版）

編集・発行

福島県生活環境部環境政策室環境活動推進グループ
（平成15年度より、環境共生領域環境活動推進グループ）

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

電話 024-521-7248

FAX 024-521-7928

Eメール katsudou@pref.fukushima.jp

